



平成29年度 鹿屋体育大学 事業成果報告書 —地方型大学スポーツ振興モデルの構築—



目次

1. 本事業の概要

2. 事業計画

3. スポーツアドミニストレーション(SA)室の設置

4. スポーツアドミニストレーターの業務

5. 本事業の詳細

5.1. ブランド創設事業

5.2. カレッジスポーツ(CS)デイ事業

5.3. 開放事業および効果測定

5.4. 収益化に向けた検討



1. 本事業の概要

地域に根差した地方国立大学の大学スポーツを通じた地域サービスの提供は、地域住民を含む多くの人々のためのシンボルを創造することであり、地域の一体感や活性化を促すであろう。そして、大学スポーツが地域のシンボルとなり、地域のための存在になりうることであれば、米国の地方州立大学のように、地域や地元住民が大学スポーツチームを支援する文化が確立されるであろう。

しかしながら、わが国における現状では地域を取り込んだ大学スポーツ活動が十分に行えていないと思われる。特に、大学で行われているスポーツ諸活動に対し、地域住民の理解が促進されておらず、大学でどのような活動をしているのか詳細を知っている地域住民は少ないように思われる。将来的に大学スポーツにおける収益を向上させるためには、まずは、大学で取り組んでいるスポーツ活動を広く知ってもらうための活動が必要であることから、本事業では**国立大学法人鹿屋体育大学が所在する鹿屋市において、地域・大学が一体となった大学スポーツ振興のモデルを提案**し、わが国における地方型大学スポーツ振興モデル創設を検証する。

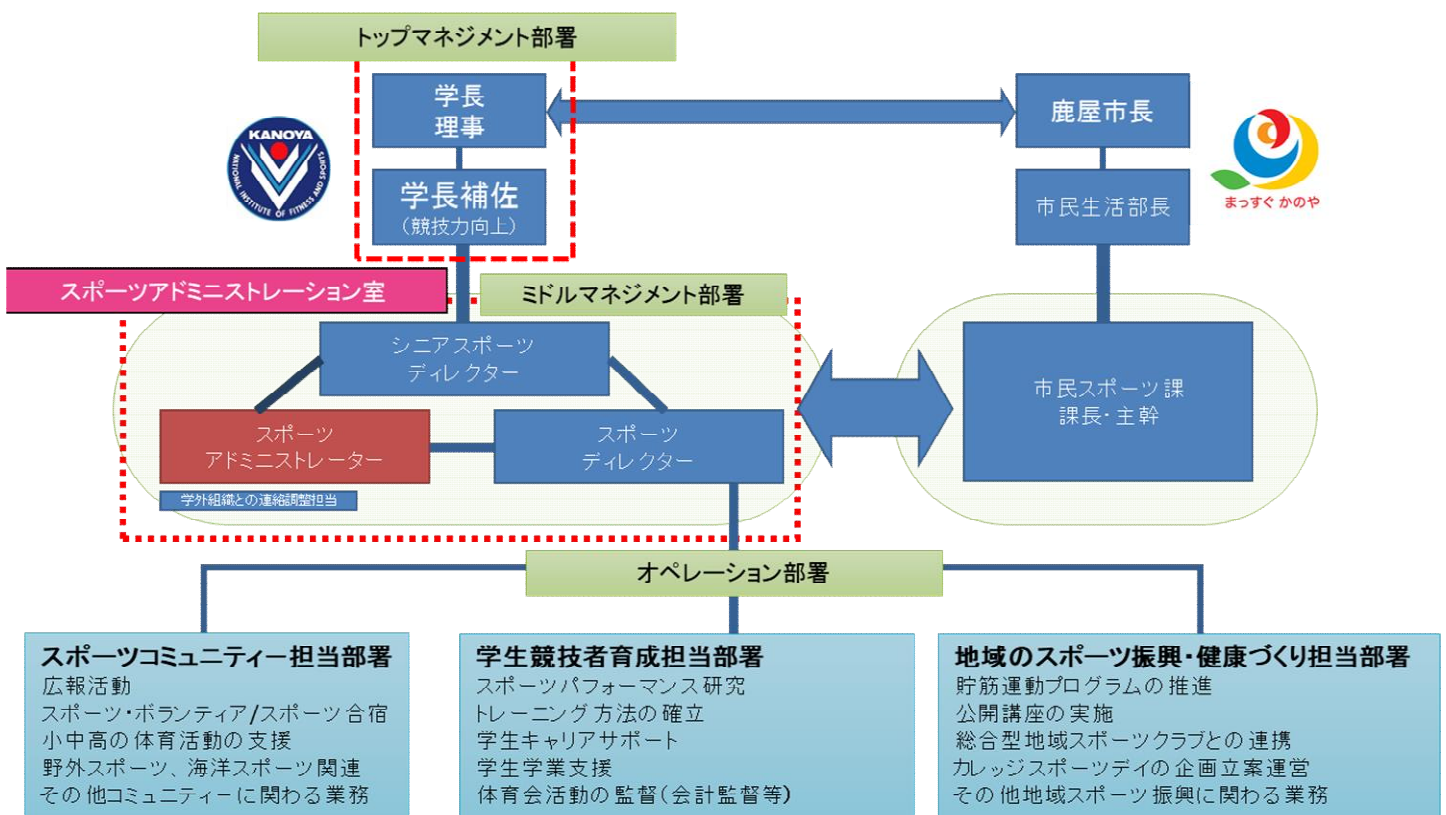


2. 事業計画

実施時期	事業項目			
	(1)ブランド創設事業	(2)カレッジスポーツ (CS)デイ事業	(3)開放事業 および効果測定	(4)収益化に向けた 検討
9月	スポーツアドミニストレーターの決定 ブランド名、ロゴ案の検討開始 (鹿屋市との共同作業)		第1回調査【大学生を対象とした大学に対する意識調査】 施設開放事業計画会議(1)	
10月	大学スポーツ振興事業推進のための統括組織の編成【大学スポーツアドミニストレーション室(以下SA室)の設置】 配布用Tシャツの作成:CSデイ広報活動 SA室会議の実施:ブランド名作成に向けた検討:ブランド総選挙実施の決定		SA室会議の実施:施設開放事業計画会議(2)	SA室会議の実施:ネーミングライツ規定の検討会議(1)
11月	SA室会議の実施:ブランド総選挙に向けたスケジュールと市長・学長確認	学祭(蒼天祭)CSデイ開催:サッカー部公式戦(1340名分のTシャツ配布,多数の観客動員)	第2回調査【市民を対象にした大学に対する意識および地域に関する調査】 SA室会議の実施:施設開放事業計画会議(3)	SA室会議の実施:ネーミングライツ規定の検討会議(2)
12月	SA室会議の実施:ブランド総選挙に向けた学内広報活動の実施	プロスポーツを招聘しCSデイ開催(2日間開催で600名の集客)	SA室会議の実施:施設開放事業計画会議(4)	SA室会議の実施:施設利用料等の検討会議(1)
1月	ブランド総選挙のための広報活動		SA室会議の実施:施設開放事業計画会議(5)	SA室会議の実施:施設利用料等の検討会議(2) ネーミングライツ規定の検討会議(3)
2月	ブランド創設に向けた第1回かのやスポーツタウンミーティングの開催 ブランド総選挙開始		第3回調査【市民を対象とした大学に対する意識および地域愛着に関する調査】	SA室会議の実施:施設利用料等の検討会議(3)
3月	ブランド名の決定および商標登録等の確認 ブランド決定発表に向けた準備活動	次年度CSデイ日程等調整	第4回調査【メディア露出効果測定】 効果測定結果のまとめ(本年度来場者数のまとめ含む) SA室会議の実施:施設開放事業計画会議(6):次年度計画	SA室会議の実施:施設利用等規定案の検討 ネーミングライツ等規定案の検討

3. スポーツアドミニストレーション室(SA)室の設置

スポーツ分野の統括業務については、大学スポーツ推進のすべてに関わる事業を統括する組織が必要であったため、本事業において大学スポーツ統括業務を実施するための統括組織を設置した。学長・理事(地域連携)をトップとした直轄組織であるスポーツアドミニストレーション室*1を創設した(図1)。



スポーツアドミニストレーター:ビジネス経験を有する専門家等
 スポーツディレクター:スポーツマネジメント分野の教員等

図1 スポーツアドミニストレーション室

*1 平成29年10月1日:鹿屋体育大学スポーツアドミニストレーション室を設置
 室長には本事業で採用をしたスポーツアドミニストレーターを配置し、学内教職員の関係各所の責任者を配置した。

学生ワーキンググループの設置

学生も月1程度のSA室会議参加および、学生WG会議の実施



4. スポーツアドミニストレーターの業務

(1) 学内組織での企画立案および、提案業務

大学スポーツを通じて収益を上げるためのアイデアの立案および提案を学内組織の調整役であるスポーツディレクターたちと共に実施するため、大学体育会や研究での成果など大学にある収益に繋がりそうなシーズを常に収集している。本事業で採用したスポーツアドミニストレーターは本学出身のOBであり、かつ、鹿児島において、スポーツイベント（鹿児島マラソンなど）を企画運営する会社の代表者であることから、鹿屋体育大学の事業内容および組織に精通しており、さらに、学内事情を把握していることから、学内組織においても本事業展開において、大学職員との連携をこまめに実施し、円滑な業務推進をはかっている。

(2) 学外組織との調整および、外部資金調達業務

本事業で採用したスポーツアドミニストレーターは事業開拓能力と外部資金調達能力に長けており、また、地元鹿児島県内でスポーツイベントの運営やスポンサー獲得などの多数の実績、経験のある者であるため、本事業においても地元企業および鹿屋市と連携し事業を推進している。



スポーツアドミニストレータープロフィール:

川前真一(かわまえ しんいち)氏

株式会社スポーツリンクアンドシェア代表取締役, 鹿屋体育大学大学院修了

5. 本事業の詳細

5.1. ブランド創設事業

ブランド名を策定するためのプロセス

1. ブランド名を策定する意義を学内外にて説明(平成29年10月~12月)



ブランド総選挙 説明会

気軽に参加可能!

日本版NCAA...?

KANOYAモデル?

日程 12月19日(火), 12月21日(木)

時間 11:45 ~ 12:10 (First Session)
12:30 ~ 12:55 (Second Session)
* 説明: 10分 / 質疑応答: 15分

場所 学食

主催 本学 S A 室
* S A 室: スポーツアドミニストレーション室

対象 本学の学生

2. 学生・市職員・大学教職員よりブランド名を公募(28件の応募あり)
3. 20数件の中から商標登録等の出願がないかを確認(SA室)
4. 3. で選定された16案について全学生および教職員の投票
5. 選ばれた上位3件について商標のチェックおよび弁理士による商標出願



ブランド名については平成30年4月中旬(予定)に鹿屋市長・鹿屋体育大学学長の記者会見にて公表されます。

5. 本事業の詳細

5.2. カレッジスポーツ(CS)デイ事業

(1) サッカー部応援イベント

平成11月11日(土)13時より本学サッカー場にて第1回カレッジスポーツデイを開催した。本事業は蒼天祭(大学学園祭)および、九州大学サッカーリーグの公式戦に合わせカレッジスポーツデイを企画し、本学学生および地域住民を中心として集客活動を実施した。事前に準備した無料配布用の1,340名分の応援用Tシャツは試合開始30分前にはすべてを配布し、サッカー場には多くの観客が本学サッカー部の応援のため来場した。また、当日は仮設観客席、飲食ブースを設置し、来場者に「みる(楽しむ)」ための環境づくりにも注力した(写真)。



(2) プロスポーツチーム誘致イベント

平成29年12月2・3日(土・日)にB.League3部に所属するプロバスケットボールチームであるレブナイズ鹿児島公式戦を開催した。国内初の国立大学施設でのプロバスケットボール公式戦となった。また、観戦者には応援用Tシャツを配布し、応援してもらうことで、一体感の醸成がなされた。地域の方々へスポーツを観る体験を提供することおよび、営利目的のスポーツ施設使用に関する環境づくりのために企画された(写真)。



(3) 鹿屋市共催による市民運動会の開催 (平成30年度大学独自事業)

鹿屋体育大学を核としたスポーツと地域の融合による交流人口の増加を図ることを目的として、鹿屋市を共催として「市民参加型運動会」を企画した。『バラが舞い！カンパチ跳ねて！ウシ突き進む！2018かのやエンジョイスports』と題して日本初となる「国立大学敷地内での市民参加型の運動会」を開催予定である。



5. 本事業の詳細

5.3. 開放事業および効果測定

(1) かのやスポーツタウンミーティングおよびランチバイキングの開催

平成30年2月18日、本学学生食堂において「かのやスポーツタウンミーティング～鹿屋が行う鹿屋のための鹿屋スポーツミーティング～」を開催した。「地域とともに創る大学スポーツはどうあるべきか～する・みる・支えるスポーツ～」を市民とともに議論する機会として企画・実施した。次年度には大学スポーツ施設の開放を目指した協議を進めるため、市民の声を直接聞くことのできる素晴らしい機会となった。(写真)



(2) ランチバイキングの開催および各種スポーツ教室の開催

開放事業の一環として学生食堂にて、平成30年3月13日(火)～15日(木)の3日間、ランチバイキングを実施した。多くの来客があった。(写真)また、各種スポーツ教室を開催し、大学施設の開放事業を継続的に実施している。



5. 本事業の詳細

(3) 効果測定結果

1) NCAA関連メディア露出

【新聞記事】

- 9月15日付 朝日新聞 17面
スポーツ庁が本学を含む8大学を選定したことについて
- 11月10日付 南日本新聞18面
NCAA鹿屋モデルの一環として、11月11日に本学内で開催の九州大学サッカーリーグ戦の応援Tシャツ配布及び観戦呼びかけの紹介
- 12月3日付 南日本新聞19面、西日本新聞17面
バスケの鹿児島レブナイズ戦の試合結果について
- 12月4日付 南日本新聞18面、西日本新聞10面
バスケの鹿児島レブナイズ戦の試合結果について
- 2月12日付 南日本新聞28面
- 2月16日付 南日本新聞19面
かのやスポーツタウンミーティングについて
- 2月20日付 南日本新聞4面
鹿屋市新年度予算に「鹿屋体育大学と連携した市民運動会」の予算配分について

【TV】

- 10/26 MBC ニュースナウ 始動記者会見
- 11/26 MBC 大隅あれこれ サッカー応援イベント
- 12/4 MBC ニュースナウ レブナイズ公式戦
- 2/19 MBC ニュースナウ 鹿屋市今年度予算(大学スポーツ振興経費)
- 2/19 KKB ANNニュース かのやスポーツタウンミーティング
- 3/24 KTS みんなのニュース 市民大運動会の実施について

【ラジオ】

- 1/13 MBCラジオ 日本版NCAAとは？鹿屋体育大学の取り組みとは

2) 大学訪問者人数(施設利用者(NCAA関連事業来学者を含む)のみ)

平成28年度:47,724名

平成29年度:66,565名(平成30年3月末現在)

***1.39倍の増加** *大学訪問者数は前年度比1.39倍となった。

新たに設置した学内情報掲示板



5. 本事業の詳細

(3) 効果測定結果:続き

3) 地域住民アンケートの実施(サッカーイベント前に配布回収)

サンプル属性:

250部配布 回収115部(回収率46%)

年齢 46.21±17.25歳

大学までのアクセス 40.15±65.22分

同伴人数 4.00±3.98人

評価項目:

1) 体育大学の印象について

多くの住民にとって体育大学は概ね良い印象を持たれている

2) 体育大の情報認知ツール

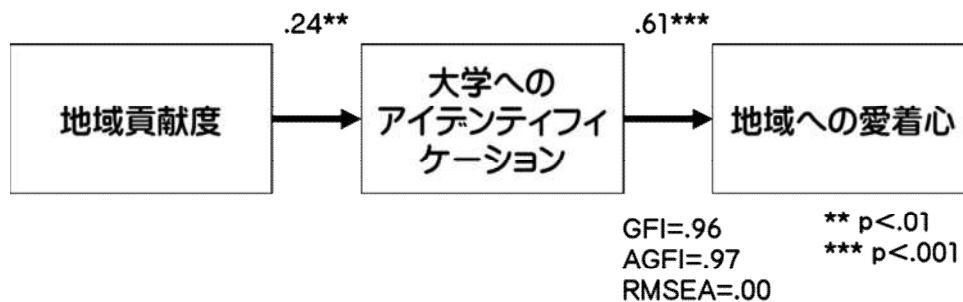
1位は知人・友人からの情報, 2位はインターネット, 3位は新聞であった。

3) 体育大へ愛着と地域への愛着

地域への愛着がある者は, 体育大学への愛着も持っていることが示された。

4) 地域愛着への大学地域貢献活動の影響

* 共分散構造分析を用いた分析結果



分析の結果, 大学が行うスポーツを通じた地域貢献活動を認知している者ほど, 大学に対する同一視をしており, 大学に対する同一視が高い者ほど, 地域への愛着心が高いことが示された。すなわち, 大学が行うスポーツを通じた地域貢献活動は, 住民の鹿屋市に対する愛着心の醸成に繋がっている可能性が示されたといえる。鹿屋体育大学の活動は地域の愛着心醸成にも関連していることから, 大学スポーツの役割の大きさがうかがえる。

5. 本事業の詳細

(3) 効果測定結果:続き

4) 在学生へのアンケート実施(9月末)

体育大生への現在の大学に対するアイデンティティ(カレッジアイデンティティ)を調査した結果,あまり高くない傾向にあることが示された(表1,2).カレッジアイデンティティは,将来的な愛校心および大学への寄附行為に強い関連性が認められることから,カレッジアイデンティティ醸成は今後の本学の大学スポーツ振興において非常に重要なものであるといえる.本事業を通じて学生のカレッジアイデンティティの醸成に向けたビジュアルアイデンティティの創造やカレッジスポーツデイの開催等を積極的に行う必要がある.

表1 調査対象者概要

サンプルの属性	人数
1年生	157
2年生	128
3年生	121
有効回答数	406
男性	293
女性	114
有効回答数	407

表2 カレッジアイデンティティの平均値及び標準偏差

	人数	M	SD	
学年	1年生	157	14.39	3.97
	2年生	128	13.70	4.01
	3年生	121	14.50	4.16

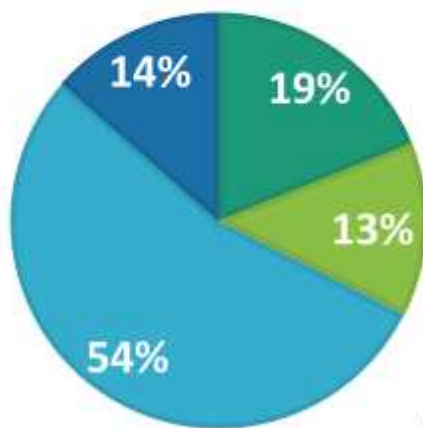
5. 本事業の詳細

(3) 効果測定結果:続き

5) その他情報入手経路 (情報入手経路を基にマーケティングを実施)

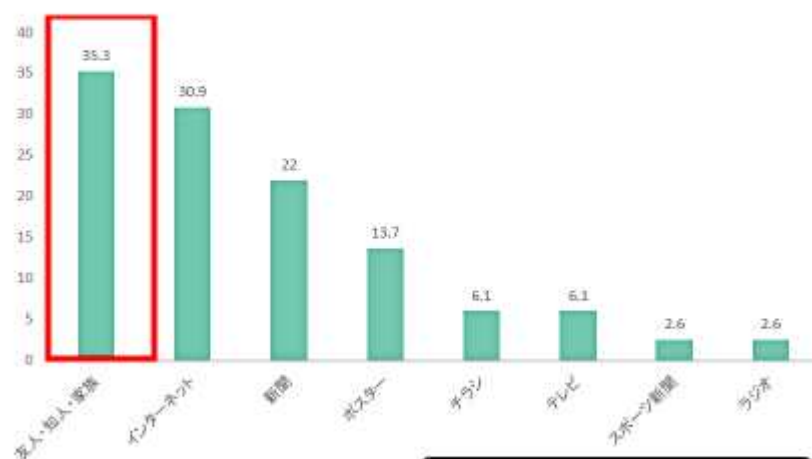
体育大生: 鹿屋体育大の情報入手方法

■ facebook ■ twitter ■ 食堂 ■ 学内掲示板



在学生の特性をつかんだPR

地域の方々:情報入手方法



地域特性をつかんだPR

5. 本事業の詳細

5.4. 収益化に向けた検討 (検討中)

●ふるさと納税:鹿屋市と連携し、大学シーズを活用した商品を開発し、ふるさと納税の納税者には健康診断を基にした運動プログラムの提供するモデルの模索。

例2 個人支援:ふるさと納税の活用(返礼品の開発)



●健康ビジネス:ダイエット教室の開催、学生食堂を活用した、食イベント企画等の検討



●観光:鹿屋市観光課と協力し、スポーツ合宿による観光ビジネスモデルの模索。

地域との連携: スポーツ合宿

年度	前年	参加者数	前年比
10	鹿屋市	26,761	100%
11	鹿屋市	19,273	72%
12	鹿屋市	11,682	44%
13	鹿屋市	11,695	44%
14	鹿屋市	11,181	42%
15	鹿屋市	10,420	39%
16	鹿屋市	9,683	36%
17	鹿屋市	9,448	35%
18	鹿屋市	7,261	27%
19	鹿屋市	6,051	23%
20	鹿屋市	4,812	18%
21	鹿屋市	4,048	15%
22	鹿屋市	3,001	11%
23	鹿屋市	2,577	10%
24	鹿屋市	2,711	10%

鹿屋市のスポーツといえば…

- ・アウトドアスポーツ
- ・女子バレーボール
- ・2020年鹿児島国体(女子バレー、カヌー、自転車)

燃ゆる感動 **かごしま国体**
 2020年 熱い感動 風は南から
10/3(日)~10/13(日)